［有明抄］（2018.2.28）

年　　組（氏名）

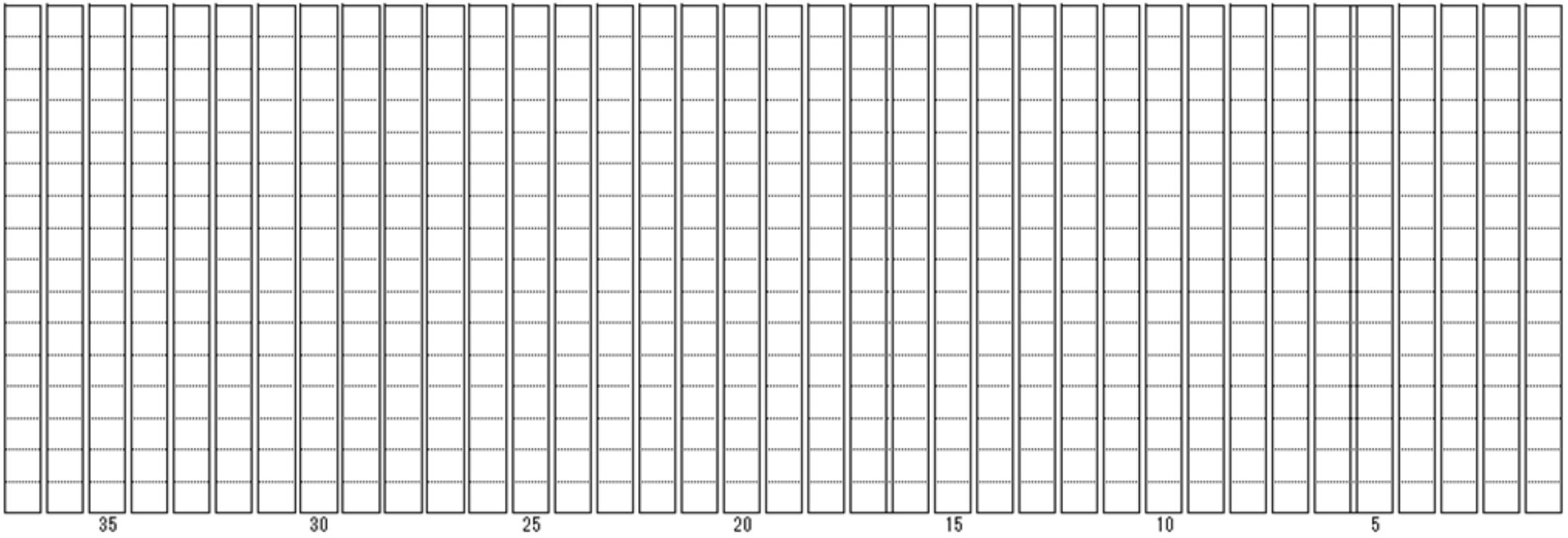
○「鼻」の漢字について、成り立ちや由来などについて調べてみよう。

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

○同じように顔や身体の部分を表す漢字についても調べてみよう。

漢字	成り立ち・由来

○芥川龍之介（読み：　　）の『鼻』を読んで、
感想（おもしろかったところ）を書こう。



新聞を通して地域の歴史を学ぼう！
さが維新塾

有明抄

19世紀に活躍したロシアの作家ゴーゴリの『鼻』は、おかしみ漂う奇妙な物語。ある役人の顔から、鼻が逃げ出してしまい、ようやく見つけた鼻は、立派な紳士に化けていて…◆この季節、くしゃみ、鼻水、鼻づまりと、トラブル続きの鼻がうらめしい。花粉症である。今年の九州北部地方は、花粉の量が昨年よりは少ないと聞いて油断していたが、そろそろ「多い」を示す赤いマークが目立ち、それだけで気がめいる◆薬局やスーパーでは、花粉症対策グッズがずらり。症状を抑える市販薬をはじめ、水中眼鏡さながらのゴーグルは、もはや定番だ。肌触りがやさしい高級ティッシュや、吹き付けておくと花粉が鼻につきにくくなるというスプレーまで出ている◆ゴーゴリの小説は、自分よりも上役に化けた鼻の紳士に対して、どう接したものかと苦慮する主人公の姿が笑いを誘う。当時の官僚機構への風刺が込められているようだが、鼻を取り外してしまうという発想に「ひょっとして、ゴーゴリも花粉症だったのかも」と想像してしまう◆平昌五輪では金メダルを取ったフィギュアスケートの羽生結弦選手が演技後、けがから治ったばかりの右足に手を伸ばしていた。「とにかく右足が頑張ってくれた」と。アスリートの流儀にならって、鼻もいたわってやらないと。逃げ出されては困るし。（史）